

# 平成28年度 矢作川流域圏検討業務

## 矢作川源流部におけるササ原の分布について

アジア航測株式会社 石原淳



大川入山山頂と西側に広がるササ原(平成28年9月3日撮影)

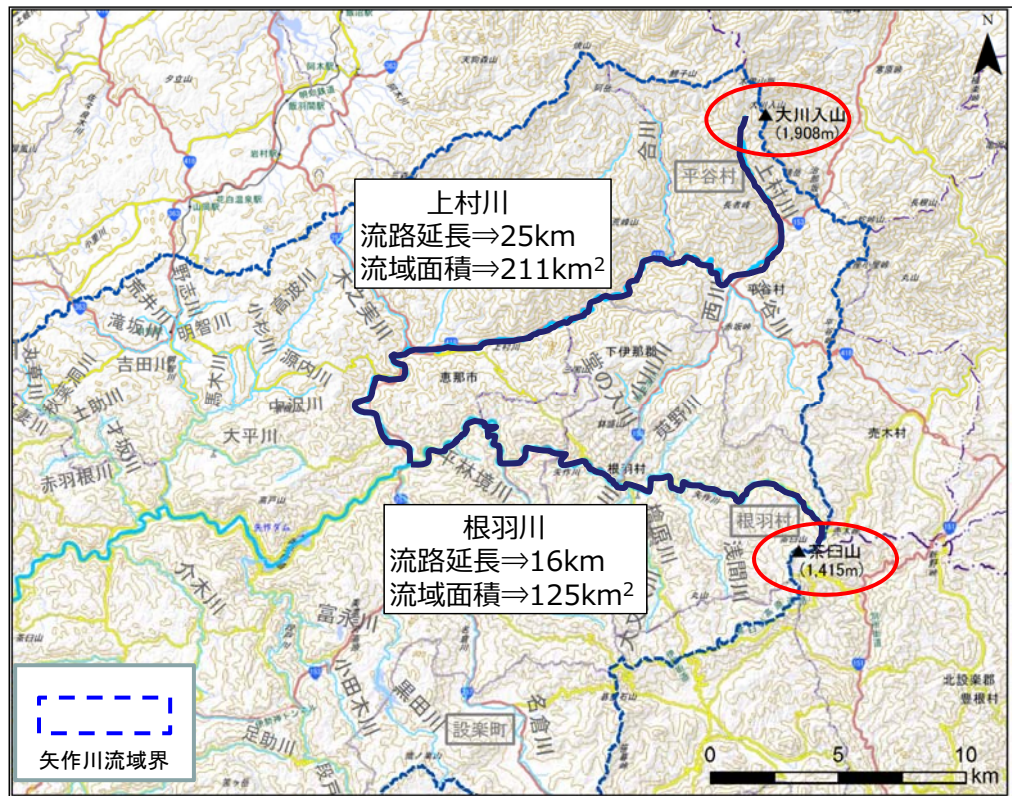
### 1. 矢作川源流点について

#### <矢作川の源流点について>

- 根羽村と豊根村にまたがる茶臼山を源流とする見方。
- 平谷村と阿智村にまたがる大川入山を源流とする見方。

#### <公的な源流点の捉え方>

- 国土地理院の地図では、根羽川を矢作川の本川としているので、茶臼山が源流点となっている。
- 水系という概念では、流量、川の長さ、流域の大きさなどが最も重要と考えられる河川、あるいは流路が最長となる河川であり、上村川を発する大川入山が源流点となっている。

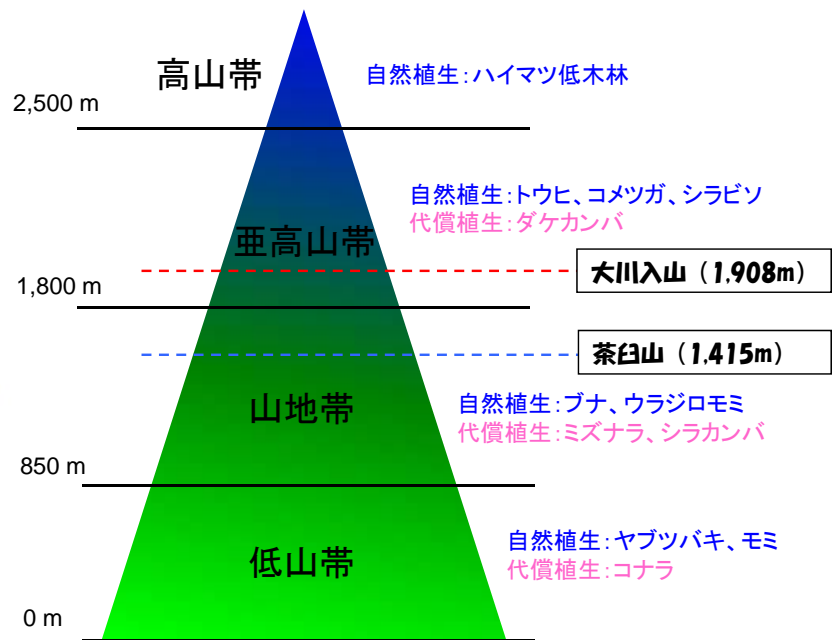




## 2.大川入山とはどんな山？

### 大川入山の特徴

- 中央アルプスの最南端の山である。
- 一年を通して、季節風の影響を受ける（特に夏季の南風、冬季の西風）。
- 矢作川流域で唯一、山頂部が亜高山帯に属する。
- 山頂部の西～南斜面に、広大なササ原を有する。



2

## 4.山頂部の草地化の例（伊吹山・蓼科山）

高山の山頂付近は樹木の矮小化や草原であることが多い



伊吹山(滋賀県・岐阜県) H28.8.10



蓼科山(長野県) H23.10.12

### 一次要因として

- ★ 風衝地
- ★ 表土の薄さ
- ★ 乾燥



### 二次要因として

- ★ 一度植生を失うと種子の供給源がない
- ★ 一度ササ原が広がると、他の植物が育たない



植生遷移が進まない（山頂効果）

3



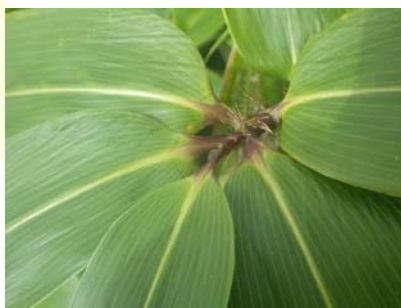
### 3.大川入山山頂部のササ原の特徴

#### 山頂付近のササについて

種名：シナノザサ (*Sasa senanensis*)

分布：樺太、千島、北海道、本州（日本海側）、九州（北部）

特徴：稈は高さ1-2m、直径5-8mm、剛壮、基部でまばらに枝を分岐する。葉身は披針状長楕円形、長さ20-25cm、幅4-5cm、上面は無毛、ときに長毛または短毛が散生し、下面は軟毛が密生する。肩毛は発達し、放射状、しばしば欠除。『出典：日本タケ科植物図鑑(鈴木貞夫著)』



中部山岳の山地帯～亜高山帯に分布するササの多くはこれ。多雪地帯には近縁のチシマザサが生育する。

4

### 3.大川入山山頂部のササ原の特徴

#### ササ原が尾根に対し南西側に偏っていた



平谷村側はササ原、阿智村側は亜高山帯の混交林となっていた。

5



### 3.大川入山山頂部のササ原の特徴

原因は、中央アルプスの最南端にあたり、季節風を遮るものがなかったから



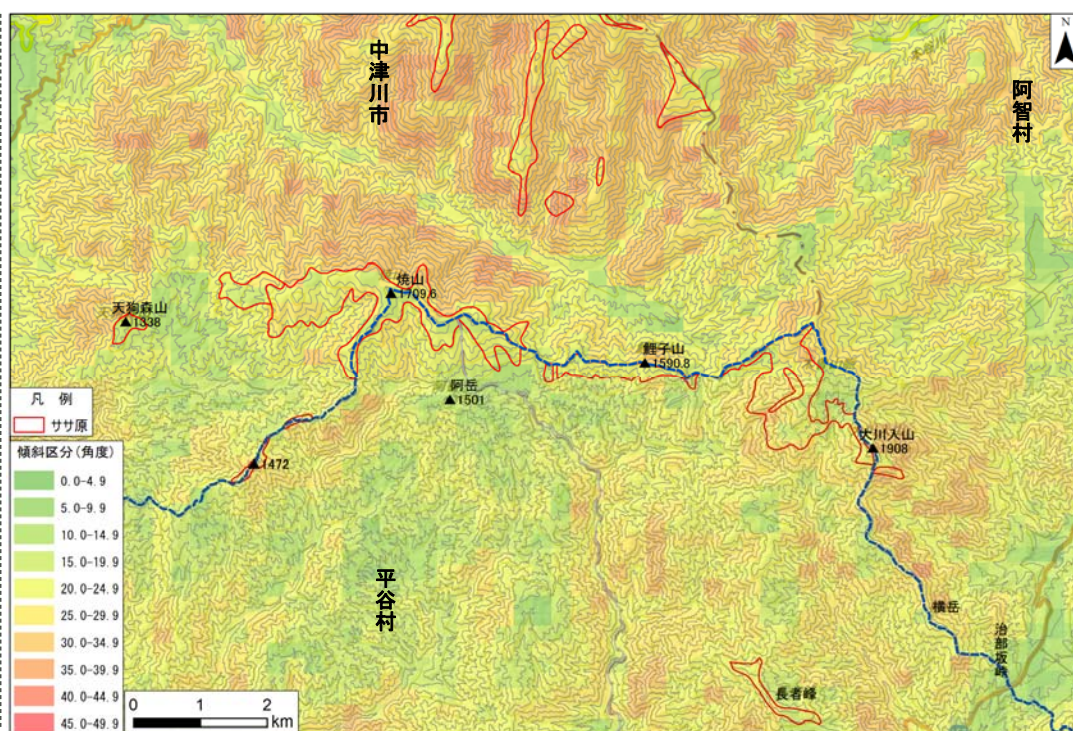
恵那山山頂部は樹林に覆われている⇒ササ原になったきっかけがあるはず・・・



### 4.ササ原の成立要因を考える

#### ササ原の分布と傾斜区分の関係

- ササの分布は、概ね傾斜30°未満の比較的緩やかな斜面に分布していた。
- 焼山周辺や恵那山山麓では、尾根に対して概ねシンメトリーな分布を示すのに対し、大川入山から鯉子山に至る尾根では、明らかに平谷村側に偏った分布を示す。

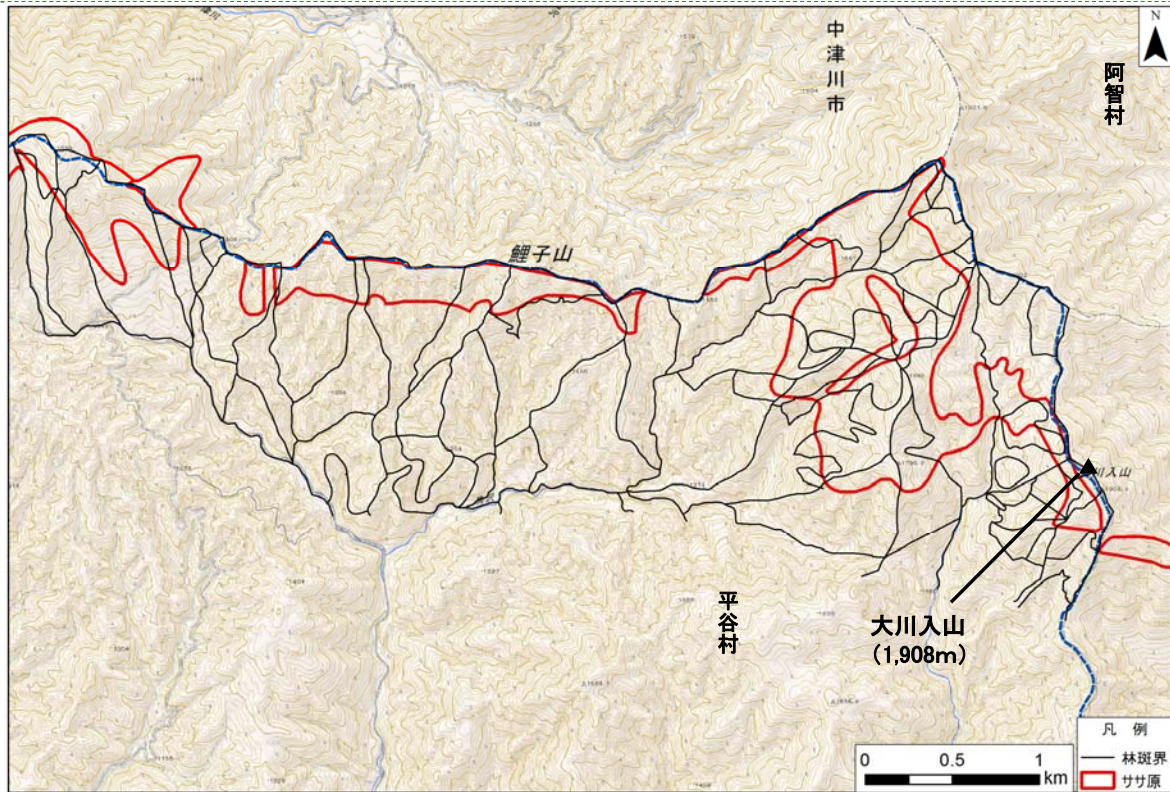




## 4. ササ原の成立要因を考える

### ササ原の分布と森林施業の関係

ササ原の分布域と林班界に整合はみられなかった。



8

## 4. ササ原の成立要因を考える

### ササ原と土壌分布の関係

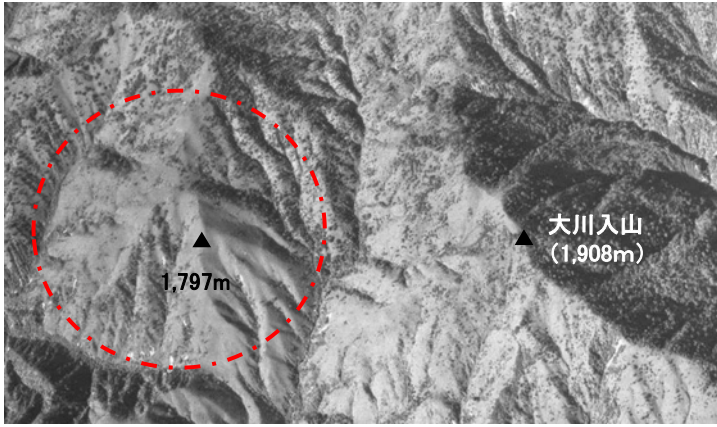
ササ原の分布域には、乾性ポトゾルと湿生ポトゾルが分布していた。



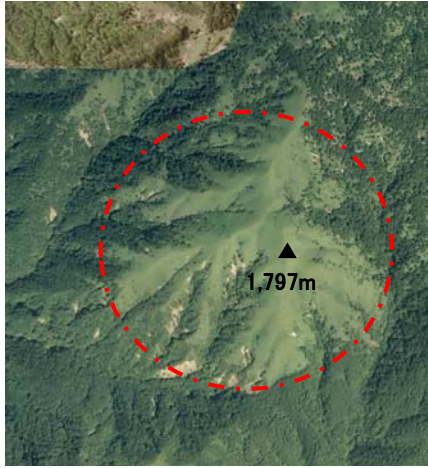
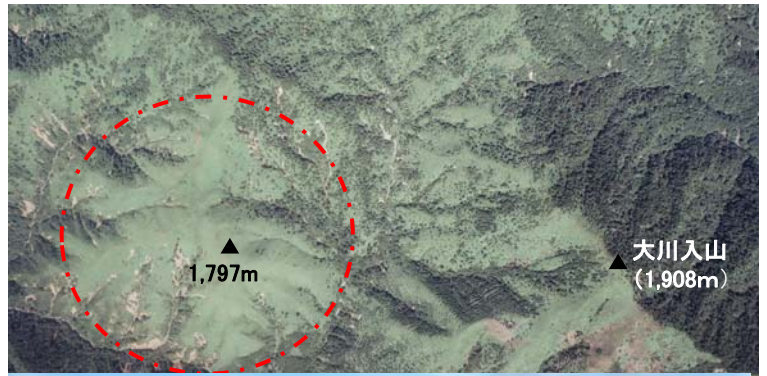
9



## 4. ササ原の成立要因を考える



昭和23年撮影



10

## 4. ササ原の成立要因を考える

山頂付近まで伐採の痕跡がみられた。



ササ原の成立は人為的攪乱がきっかけでは？



昭和51年撮影

11



## 5. 平谷村住民へのヒアリング結果

### ★人為的攪乱があったか、登山者にヒアリングを行った

#### 《結果》

- ★昔よりもササ原が広がっている気がする
- ★昔から大川入山は、ササ原のイメージだ



### ★人為的攪乱があったか、村民にヒアリングを行った

#### 《結果》

- ★知らない・・・（多くの人知らないとのこと）

- ★平谷側は一度皆伐している(戦中・戦後)



皆伐の履歴を持つという情報が得られた

12

## 6. 大川入山のササ原についてのまとめ

平谷村では、戦中～戦後にかけて大川入山西側の森林を皆伐していた。

その後、林床にはえていたシナノザサが山頂付近まで拡大したものと考えられる。(70年を経過しても樹林が回復していない。)

ササ原は、雨・雪・風による表土の浸食を防いでいる一方で、他の植物の進入を拒んでいる。現在は、ササの病気や寿命による枯死から、少しずつ樹林が回復しているものと思われる。



ササ原には、パッチ状の衰退エリアがみられた



原因①: アブラムシ等による病害枯死

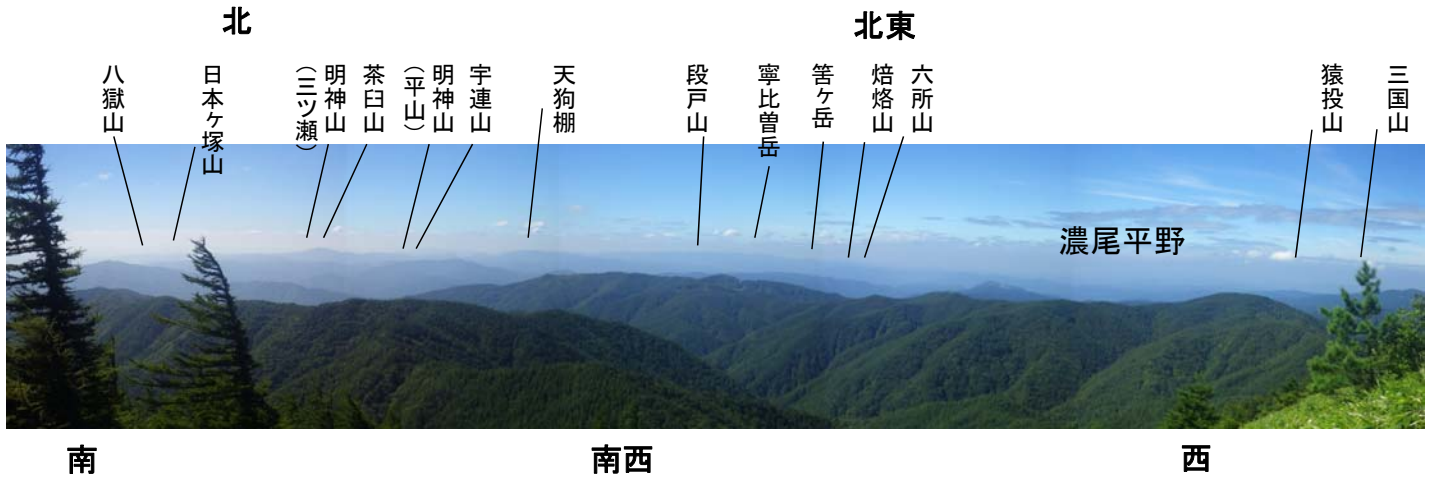
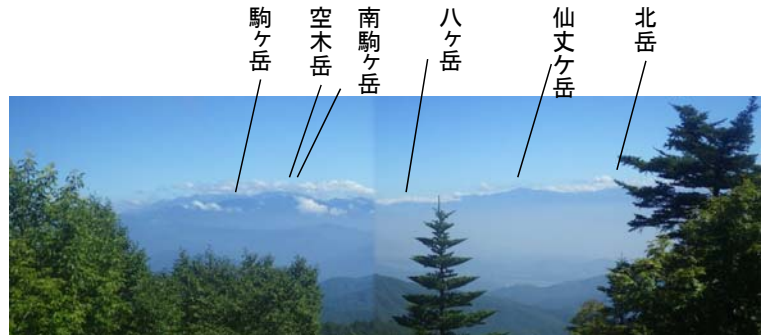


原因②: 開花後の枯死

13

# 大川入山山頂の絶景について

天竜川・豊川・矢作川・庄内川・木曽川水系の山々を一望できる



14

## おわりに

樹林内もササ原も歩きやすいので、子どもからお年寄りまで登頂可能



流域の皆さんに、是非知ってもらいたい山です。

**矢作川源流点を訪ねてみませんか！！！！**

15